

日本薬剤師会 生涯学習支援システム JPALS の e-ラーニングでは、薬剤耐性（AMR）対策に関する以下の2つのコンテンツを配信しています。

**【コース名】 薬剤耐性（AMR）と その対策**

**【講師】 国立国際医療研究センター病院 AMR 臨床リファレンスセンター 具 芳明氏**

**【要旨】**

ペニシリンが実用化された1940年代以降、多くの抗菌薬が開発されて人々の命を救ってきた。近年は開発途上国を中心に薬剤耐性（AMR）が増加し、悪性腫瘍による死亡者を上回る可能性すら指摘されている。

日本では薬剤耐性（AMR）対策アクションプランのもと、さまざまな対策が行われている。そのひとつとして抗菌薬適正使用が注目されている。抗菌薬適正使用とは、抗菌薬を必要なときだけ使うとともに、使う場合は適切に使うことである。その推進のため抗菌薬適正使用支援チームを導入する医療機関が増えている。外来医療でも厚生労働省が手引きを発表するなど取り組みが進められている。薬剤耐性菌を広げないため標準予防策を中心とした感染対策は医療従事者の基本的手技といえる。さらに、市民教育の重要性が高まっている。

AMR対策はまだ始まったばかりである。多職種で幅広く取り組む必要があり、中でも薬剤師への期待は大きい。

**【講義時間】 32分**

**【公開日】 2019年7月5日**

**【コース名】 薬剤耐性（AMR）対策における薬剤師の役割**

**【講師】 京都薬科大学 臨床薬剤疫学分野 村木優一氏**

**【要旨】**

薬剤耐性菌の増加が公衆衛生上の世界的な問題となっており、薬剤耐性（AMR）対策アクションプランが日本でも公表され、2020年に向けた成果指標が掲げられた。耐性菌は入院期間の延長や罹患率を上昇させるだけでなく、死亡率も上昇させる。耐性菌は不適切な抗菌薬使用により選択されるため、安易な使用を避け、投与する場合でも適切に使用しなければならない。こうした状況に薬剤師は、医療機関や薬局等、場所を問わずに抗菌薬適正使用の支援や感染伝播の抑止への積極的な関与が求められている。

本講座では、AMR対策に関連する感染症診療と治療の考え方について症例を提示し、説明を行うことで聴講者が感染症の患者の処方を受け取った際、少しずつでも関与できるようになることを目的とする。また、感染対策の基本となる標準予防策や成果指標についても説明し、明日からの業務に活かせることも目指す。そして、聴講者の行動の変化がAMR対策に繋がればと考える。

**【講義時間】 27分**

**【公開日】 2019年7月5日**